

氏名(本籍)	よし だ なる と 吉 田 成 仁 (石 川 県)		
学位の種類	博 士 (ス ポ ー ツ 医 学)		
学位記番号	博 甲 第 6262 号		
学位授与年月日	平成 24 年 3 月 23 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	筋反応時間を指標とした足関節不安定性の特性に関する研究		
主査	筑波大学准教授	博士(医学)	向 井 直 樹
副査	筑波大学教授	博士(医学)	宮 川 俊 平
副査	筑波大学教授	博士(スポーツ医学)	宮 本 俊 和
副査	東京医科大学茨城医療センター教授	博士(医学)	石 井 朝 夫

論 文 の 内 容 の 要 旨

(目的)

筋反応時間から見た足関節不安定性の特性に関する新たな評価法を見つけ出すため。

(対象と方法)

T 大学サッカー部 160 名より足関節不安定性を有する者と、有しない者を抽出した。実験 I ではトラップドア法で腓骨筋反応時間をみた。実験 2 では、腓骨筋に鍼通電刺激を行い、トラップドアにおいて腓骨筋反応時間の回復を観察した。実験 3 に於いてはパフォーマンステストを行い、足関節機能的不安定性の評価の指標を提言した。

(結果)

実験 1、2 に於いて、不安定群は反応時間が有意に延長していたが、鍼通電刺激で正常化した。実験 3 において、パフォーマンステストの有効性が検証された。

(考察)

足関節不安定性の一因として筋反応時間の遅延が確認されたが、腓骨筋への鍼通電刺激や、腓骨筋トレーニングによって改善されたことからこれは内反刺激に対する反射経路のうち、求心性の経路に異常があることが推測された。以上から足関節不安定性の要因として、足関節内反刺激に対する求心性の異常が関与していることが示唆された。求心性線維の異常は鍼通電刺激や腓骨筋トレーニングにより回復すること認められた。

(結論)

足関節不安定性の要因の一つを特定することができた。

審査の結果の要旨

本論文は繰り返す足関節捻挫後の後遺症である足関節不安定性の治療や予防において新たな知見を得ることができた価値ある研究であると判断した。

平成 24 年 1 月 17 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（スポーツ医学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。